

平成20年度

# 研究だより

南部小学校

H20.10.15

No. 5

<兼子>

第5回授業研究会（10月8日）ご苦労様でした。



3の1・算数科・「もっとわり算の計算の仕方を考えよう！」



黄木洋子先生の授業から学ぶ

## <成果>

### 【仮説1について】

- ・鈴木さんに自分たちが世話をしたハウセンカを運んでもらうという問題の設定は、自分たちの身近な問題として捉えさせるのに効果的だったのではないだろうか。また、あまりの切り上げる処理の必要性を感じ取らせることができたのではないだろうか。
- ・一人ひとりじっくりと考え、自分なりのやり方で自力解決しようと取り組むことができていたのではないだろうか。学習訓練、培われた力が活かしている。

### 【仮説2について】

- ・学び合いのルールとして、「つなげて」「わたしも」などの話し方から、前の友達の発言を受けて話そうとしていたことすばらしかった。
- ・教師が意図した学習への仕掛けとして、「あまりをどうするか」というねらいにそった意図的な指名が話し合いを深めることにつながったのではないだろうか。
- ・自分の考えと友達の考えを比較し、自分の考えの変容を振り返ること、自分の思いも話しながら関わることができたことができていたのではないだろうか。
- ・答えを書いた時の迷いを発表させたことにより、まちがえたとしても分かったにつながったのではないだろうか。

## <課題>

- ・学力定着のためには、ねらいに沿った時間的な展開を考え、類似問題に取り組みせ自力で確かめさせたいところである。
- ・前時との違いである「あまりをどうするか」という課題を焦点化し、練り合わせることもできたのではないだろうか。
- ・すぐに答えを出せた子と、自力解決に時間がかかる子を別々にし、早く解けた子はその子たちのグループを作って関わらせていくなどの方法も考えられる。
- ・「5あまり3」の意味として、5回あまり3回と捉えている子と、5回あまり3個と捉え

ている子がいた。処理の仕方ですれ合わせることもできたのではないだろうか。

5の1・算数科・「稲刈り競争 どっちの方がたくさん刈ったかな？」

兼子伸也先生の授業から学ぶ

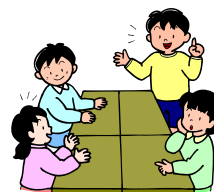
## <成 果>

### 【仮説1について】

- ・「ピッピッピゲーム」で自分の三角形を作るという導入は、2人組で雰囲気が和らぎ、何が始まるのだろうという気持ちをもって取り組めたのではないだろうか。また、与えられたという意識でなく、自分の三角形という意識付けができたのではないだろうか。
- ・稲刈りの面積比べという内容で、黒板に前時までの学習とこれからの学習が提示されていたので、①切って移動する②2倍にして半分などの意見が出て、見通しをスムーズに持たせることができたのではないだろうか。
- ・まとめで、どの三角形も同じ面積になるということから児童に疑問をもたせ、次時の三角形の底辺と高さの学習につながりがもてたのではないだろうか。

### 【仮説2について】

- ・「分からない人は友だちに聞いてよ。」という言葉かけによって、子どもが動き出すきっかけになっている。そのことによって、関わりあって学ぶことができるようになるのではないだろうか。
- ・解決の時間をたっぷりととることで、一つの考えをやり終えたら別の考えでも取り組むことができ、言葉や図で説明をしっかりと書くことができたのではないだろうか。
- ・教え合いながら、「うん、うん・・・」と納得していくこがが増えていく様子が見られた。友達どうしの交流によって、自分の考えを相手に伝えることができ、また先生にも聞いたり伝えたりすることができていたのではないだろうか。
- ・自由に交流することによって、自然な形で友だちに自分で考えてみることを促し、その様子をじっと見ていた別の友だちにヒントを与えるなど、複数の子の関わりを生むことができたのではないだろうか。
- ・「分からないから教えて。」と言える雰囲気を大切にしている。  
また、分からない子へ説明する力も育っていくのではないだろうか。



## <課 題>

- ・板書していることを子どもたちもしっかりノートに書いているが、友達が考えを述べている際も下を向いてノートを書いている子がいる。考えを聞く時とノートをとるときの時間をはっきりと分けた方がよいのではないだろうか。
- ・分からなくてもなかなか自分から交流できないでいる子に対して、事前に支援策（先生に行く・別プリントを用意しておく）を立てておく必要があるのではないだろうか。
- ・教え合い、学び合いの関わり方で、人間関係や仲よし関係が影響してくるのではないだろうか。積み重ねる中で広がりをもとめていきたいものである。